

## 令和元年度第2回自立支援協議会地域生活支援部会 議事要旨

1. 開催日時 令和元年8月22日(木) 午後1時30分～2時30分

2. 開催場所 市役所4階 S2・3会議室

3. 出席者(委員) \*団体名のみ記載

(福) なゆた、(福) 敬心福祉会、千葉商科大学、いちょうの会、浦安市視覚障害者の会トパーズクラブ、浦安市自閉症協会、浦安市身体障害者福祉会、浦安手をつなぐ親の会、千葉発達障害児・者親の会「コスモ」浦安グループ、浦安市肢体不自由児親の会「どっこらしょ」、(福) パーソナル・アシスタンスとも、(特非) あいらんど、(特非) 千楽、(福) サンワーク、(株) A.ver、ケーズケア(同)、(株) 徳久、(福) 佑啓会、(福) 市川レンコンの会、障害者就業・生活支援センターいちされん、順天堂大学医学部附属浦安病院

(事務局) 障がい事業課、障がい福祉課

### 4. 議事次第

1. 開会

2. 議題 (1) 令和元年度地域生活支援部会の議題について

(2) その他

3. 閉会

4. 配布資料

(1) 議題(1)資料 令和元年度 地域生活支援部会 議論経過表

### 5. 議事概要

(1) 令和元年度地域生活支援部会の議題について

#### ■説明(事務局)

今年度議論を深めていきたい議題を、議題(1)資料をもとに追加し、集約する旨説明を行った。

#### ■主な意見(リーダー:リ サブリーダー:サ 委員:委、事務局:事)

サ: 仕事以外の日中活動の充実化にニーズがある。どのような活動をしているか、どこが足りないか、どのようにすれば実現できるか興味がある。就労そのものの定義も曖昧。

当事者側のニーズに答えられていない部分や、事業者側でやりたいと思っているができていないことがあれば、教えていただきたい。例えば就労継続支援事業所はどうしても仕事に特化してしまうので、生活に必要な社会生活技能的なところは支援する機会がなくなってしまう。

委: 日中のやりがいとなる活動の充実というのは、地域活動支援センターの領域。また、

仕事の手前の訓練は、生活訓練が活用可能ではないか。それ以外の資源ということか。

サ：就労支援事業所で仕事をして、生活技能向上には地活や生活訓練、自立訓練の事業所を使う形が望ましいと思いつつ、これらの併用自体が難しい現状があると思う。自立訓練の事業所に入ると、毎日そこを使って訓練するというふうになり、仕事をしたいというニーズに応えられないことがあるように思える。

委：うちは多機能型で、生活介護（自立訓練）に籍を置きながらB型（就労）に近い作業も行っている。

委：当事業所は地域活動センターⅡ型なので、登録者が開所時間中に自由に来所し、過ごしている。就労の準備段階として封入作業など訓練にも参加できる。その参加の仕方も、就労の事業所とは違って参加時間が非常にふわっとしている。厳しい就労訓練や生活訓練の前段階として使うにはいいと思っている。

サ：介護給付費や訓練等給付費が1日単位で支給されるために、就労の支援事業所を半分使って残りの半日は自立訓練を使うとか、半分は就労支援事業所を使って、残りは日中一時の事業所を使うなどができない。使い勝手よく緩やかに、1日に複数の事業所を使うことができる選択肢が広がる。

委：まず話をするときに、浦安市内の社会資源の表とか数があったほうがわかりやすいと思う。自立訓練は浦安でやっているところがあるのか、生活介護は多いと思うが、B型がどれくらいあるのか、就労移行がどれくらいあるのか、数字が不確かでどこら辺が多く使われていて、余り使われていないのかという統計がとれない。B型事業所が今満杯の状態なのか、あいている状態なのかによっても違う。

また、ある利用者が働けるのか働けないのかは、支援者の見方にもよる。継続Bや生活介護の支援者の方にも、利用者が就労に結びつくんだよというのを、イメージしてもらう必要がある。

委：「就労不可」や「重度」という人の定義が難しい。自分の子はB型事業所を利用しており二十歳を過ぎているが、常に成長してほしいと思っている。就労の場所でSSTをやるのは、ありがたいようで何か違う。福祉的な就労であっても、親としては社会人として本人たちが自信を持ってやっているという姿を望んでいる。そこで午後はヨガです、とかにされると、ありがたいと思う気持ちの反面、これでいいのかという気持ちがある。就労の場は就労の場であってほしい。1つの事業所の中で生活介護とBがあればそこで融通できるだろうが、Bしかやっていない事業所、生活介護しかやっていない事業所で、事業所間の連携をちゃんとするというのが必要。

また、知的障がいが必要でサポートが必要な人というのは、家庭のかかわりが重要。家族が積極的にかかわらないのであれば、事業所ががんがんやるのは親切のようでおせっかい。なので、事業者間の連携もそうだが、家族というか当事者を巻き込むものを全部一緒にして、こういう形と決めつけられないほうがいいと思う。

委：あったらいいと思う支援について。若いお母さんにも、現場をぜひ見てほしい。本当

にいろいろな働き方がある。仕事の現場を見に行くツアーがあれば、本人の可能性が広がる。

また、青少年サポート事業で高校生以上のグループがないので、そういうグループもつくっていただければと思う。

(2) その他

■説明（事務局）

11月2日に新浦安駅前広場で「障がいのある人もない人も！かがやくまち うらやす」を開催する旨告知。

■主な意見（リーダー：リ サブリーダー：サ 委員：委、事務局：事）

特になし